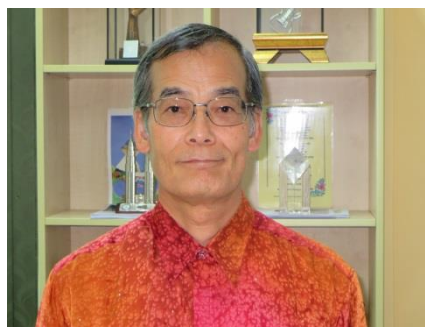


マレーシアと筑波大学

筑波大学客員教授 堀江正彦
外務省地球環境問題担当大使

マレーシアという国をご存じですか？ ASEAN（東南アジア諸国連合）10カ国の中で、シンガポールに次いで経済発展している国です。

そのマレーシアでマハティール氏が、1981年に首相に就任すると同時に「東方政策」Look East Policy を打ち出しました。「開発途上にあるマレーシアを先進国入りさせるためには、敗戦ののち復興に成功した日本の



経験に学んで、国造りをしなければならない」として、多くの学生を日本に留学させ工学を中心に学ばせたのです。これまでに15,000人ももの研修生や卒業生を輩出し、今日では政府高官になっていたり、大学の教授や民間企業の重要なポストについています。

マハティール首相は、2001年に当時の小泉首相に対して、これまでは日本に留学させていたが、これからはマレーシアに日本式工学教育をする大学を設立して、日本も含むアジアからの学生にも留学して貰いたいとの提案をされました。その後の紆余曲折を経て、2011年にマレーシアの首都クアラルンプールに「日本マレーシア国際工科院」(MJIT)が設立されるに至りました。現在、約550名の学生を対象に講座制をベースに英語での授業が行われています。

MJIT で日本式工学教育を実施するために、日本の25の大学がコンソーシアムを組み、外務省、JICA とともに協力しています。筑波大学は、最も新しくコンソーシアムに参加しましたが、白岩善博先生を中心とする筑波大学が最も活躍している大学の一つです。すでに、筑波大学生命環境系より杉浦則夫先生が MJIT に派遣され、水環境浄化に関する教鞭をとっておられます。藻類の研究者の岩本浩二先生も、まもなく着任の予定です。

現在マレーシアは、2020年までに先進国入りするとして、ナジブ首相が全力を尽くしていますが、ナジブ首相は、その中でも、東方政策に<第2の波>を起こしたいとしており、この MJIT をその基盤にする方針を打ち出しました。日本においては、逆にグローバル人材を育てていかなければ日本の将来はないとして、政府、大学、企業などが一生懸命に努力しているところです。

筑波大学は、数ある大学の中でも、多くの新機軸を編み出し国際化の先端を切っていると思います。今後とも、この筑波大学と MJIT との関係が一層強化され、多民族、多文化国家であるマレーシアに留学する日本人学生が増え、日本の国際化が進展することを期待したいと思います。

(2014. 2. 12記)